

2023年6月2日

各位

三井住友信託銀行株式会社
Trust Base 株式会社

デジタルアセット事業の本格展開に向けた
Web3・トークンエコノミーにおける概念実証の実施について

三井住友信託銀行株式会社（取締役社長：大山 一也、以下「当社」）と三井住友トラスト・ホールディングス株式会社の DX 子会社である Trust Base 株式会社（取締役 CEO：田中 聡、以下「Trust Base」）は、セキュリティ・トークン（以下「ST」）をはじめとするデジタルアセット事業の本格展開に向けて、Web3・トークンエコノミーにおける概念実証を行います。

本概念実証は株式会社 Ginco（代表者：森川 夢佑斗、以下「Ginco」）、Securitize Japan 株式会社（代表取締役：ジェームス・エイチ・フィン、以下「Securitize」）と共創して行い、本概念実証を通して蓄積したノウハウを活用し、上記企業を含めた他企業や機関と Web3・トークンエコノミーの本格展開に向け更なる検討を進めていきます。

1. 概念実証を行う背景

昨今、官民両分野において Web3 について活発な議論がされており、様々な業界で Web3 領域の新たな取組が行われています。当社においても、STO(セキュリティ・トークン・オファリング)の受託を通してトークン発行の実績を積み上げている他、ビットバンク株式会社が設立した暗号資産の信託を目指す日本デジタルアセットトラスト設立準備株式会社（JADAT）へ出資を行うなど、デジタルアセット領域拡大への取組を続けてまいりました。また、Trust Base においても、Web3 視点での次世代型デジタル信託構想の検討を深めてきました。

一方で、これらの取組や検討の過程で多くの課題が見つかり、各ステークホルダーが利用する上での業務負荷の改善や利便性の向上に向け、既存の枠組みに囚われない新たな業務のあり方を、これまでの取組に加えて模索する必要性が明らかになりました。特に Web3 が展開されるパブリックブロックチェーンは金融機関にとっては新たな世界であり、信託の強みを展開するにあたっては技術的な知見の獲得が必須と考えております。

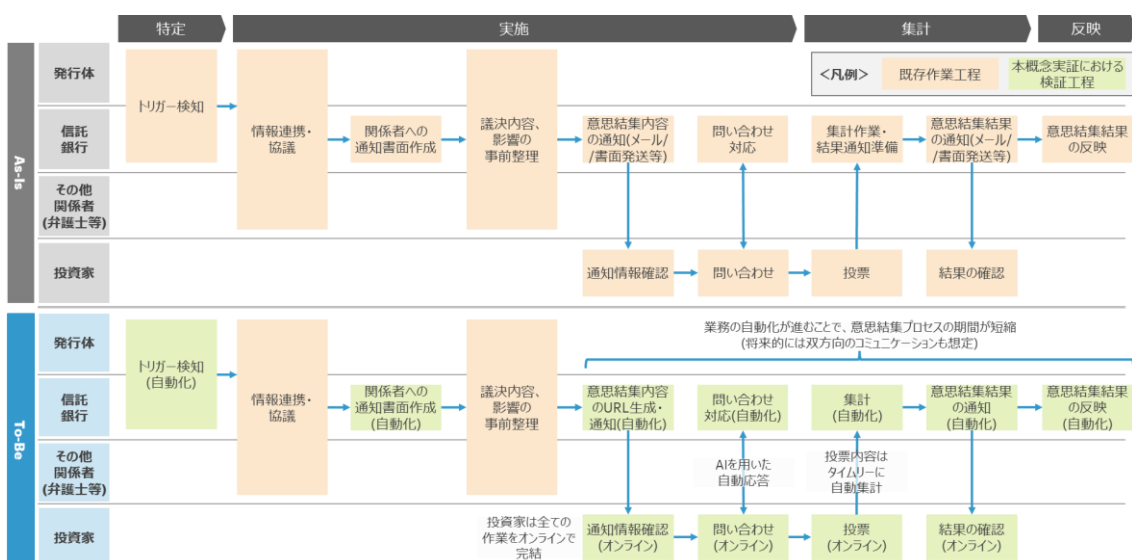
本概念実証を通して、Web3・トークンエコノミーにおけるノウハウを蓄積し、現状の業界全体の課題解決のみならず、既存業務に囚われない斬新な発想で、新たな資金循環の仕組み作りの支援を行っていきます。

2. 概念実証の概要

実証実験 1. 意思結集プロセスについて（実施予定時期：2023年6~8月）

ガバナンストークン（GT）を用いた意思結集プロセスにおける業務の効率化を検証します。具体的には、パブリックブロックチェーン（Ethereum テストネットを想定）上で実証用のダミーSTと合わせてGTを発行し、ダミーSTの条件変更の際にGTを用いたブロックチェーン上での意思結集プロセスを実証します。GTはセミファンジブルトークン（半代替性トークン、SFT）に位置づけられるERC-3525の規格を採用します。本概念実証を通して、今後、発行体と投資家間のコミュニケーション手段としての新たな意思結集プロセスの実現を目指します。

<意思結集プロセスのAs-IsとTo-Be>



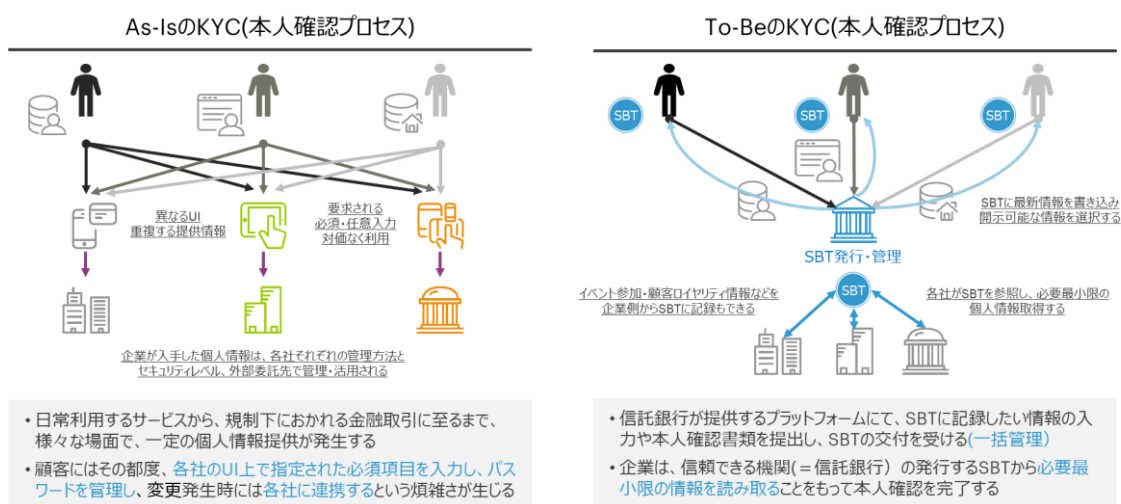
実証実験 2. KYC(本人確認プロセス)について (実施予定時期：2023年8~10月)

ソウルバウンドトークン (SBT) を用いた本人確認プロセスにおける業務の効率化を検証します。具体的には、SBT をパブリックブロックチェーン (Ethereum や Polygon を想定) で発行し、口座開設時、金融等取引時の SBT を用いたブロックチェーン上での本人確認プロセスを実証します。(電子公証領域における SBT の活用についても検討していく予定です。)

SBT はユースケースごとに ERC-3525 や ERC-6147 等の複数の規格を試す予定です。

本概念実証を通して、Web3 視点での新たな本人確認プロセスを構築し、資金需要者と投資家が安心して参加することができる、法令に遵守した健全な Web3・トークンエコノミーの発展を目指します。

<KYC(本人確認プロセス)の As-Is と To-Be>

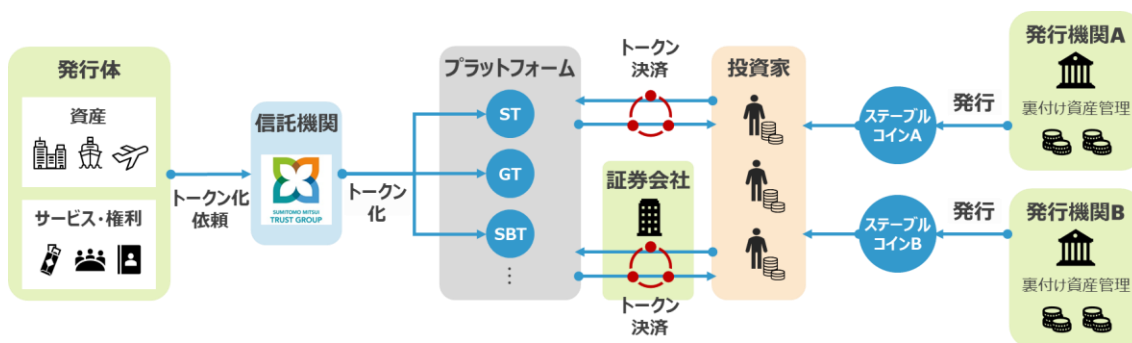


実証実験 3. トークン決済について（実施予定時期：2023年9月頃）

Web3 が発展する中ではパブリックブロックチェーン上で自由にトークンが流通することが想定されることから、トークンの移転・交換の決済手段として注目を集めるステーブルコイン決済の検証にも取り組みます。本テーマでは Web3・トークンエコノミーにおける知見のある Securitize ならびに Ginco と協働して進めていく予定です。

本概念実証を通して、ステーブルコインの取扱いに必要な技術・実務的論点について整理を行い、Web3・トークンエコノミーに求められるプログラマブルな決済について検証します。

<トークン決済のスキームイメージ>



- デジタル資産（トークン化）の利点の一つに小口化が挙げられるが、既存の決済インフラでの対応には技術的な課題や各ステークホルダーの業務負荷・利便性の観点でも課題は残っており、解決が必要となっている。
- Web3の世界ではトークン同士の交換やステーブルコインによる決済が主流で、デジタル資産の利便性を高めるためにはステーブルコインなどのプログラマブルな決済方法によるシームレスなプロセスが求められる。
- ステーブルコイン運営に指摘されている課題に対して、伝統的な金融資産の管理を適用するだけでなく、トークン取引の知見を蓄積し、従来のリスク管理と先進的な決済技術の実務的な融合を目指す。

今後も当社と Trust Base は Ginco、Securitize 等の他企業・機関と業種を超えた共創を通して、Web3・トークンエコノミーの健全な発展への寄与と社会貢献を目指していきます。

以上